

第4章 商工業振興の基本的な考え方

第1節 基本理念

本市の商工業に関する現状と課題をふまえ、商工業振興計画の基本理念を掲げます。

「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」の成田のまちづくり

これまで本市は、国際空港の立地により大きく発展してきました。

しかし、本市も空港も、国内外の社会経済環境の目まぐるしい変化にさらされ、今後とも変化が続いていくことが予想されます。このような中で、本市が今後も持続的に地域経済の活力を維持していくためには、本市の事業者、市民、行政が主体となって、本市ならではの資質に立脚した、「内発型の地域産業^{*}」を築いていく必要があります。

本市の利便性の高い都市・交通環境は、居住環境としても優れ、本市は今も人口増加が続く都市となっています。また、本市は、広域住民に様々な都市機能、買い物や就業の場を提供する都市として、昔も今も、強い求心力を発揮しています。しかし、その一方で、中心市街地の活性化、地元商店街の空洞化が大きな課題となるなど、これまで地域を支えてきた従来の産業が苦境に立たされています。今後は、首都圏住民のライフスタイルの創造に貢献する産業を育むとともに、住民の生活とともにある産業を市民とともに育み、便利で活力のある商店街の振興を通じ、「住んでよし」のまちづくりを進めます。

本市は、国際空港を擁する立地条件に恵まれ、空港を中心に運輸業をはじめとする様々な産業が集積する「空の港町」として成長してきました。首都圏整備が進む中、空陸の交通ネットワークはさらに整備充実する方向にあります。今後は、この立地優位性と、これまで本市が培ってきた地域特性、産業特性を有利に活かし、本市ならではの地域産業群を形成し、日本を代表する国際物流拠点、首都圏の生活や産業を支える都市として、魅力的な商工業が集積する「働いてよし」のまちづくりを進めます。

本市には、首都圏でも有数の観光拠点である成田山新勝寺があります。この他にも、地域が守り、育んできた自然や歴史的・文化的環境に恵まれていますが、その魅力は十分に知られていません。今後は、これらの地域資源に光を当て、国際観光地にふさわしい都市イメージの形成、集客交流の魅力づくりを進め、「訪れてよし」のまちをつくっていくとともに、これを通じて地域産品の販路拡大を進めます。

「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」のまちをつくっていくためには、まちぐるみの取り組みが必要です。本市では、商工業者を中心に、関係団体、市民、行政が連携・協力し、一体となって成田市ブランドのまちづくりを進めていくこととします。

^{*}内発型の地域産業…外部資本の導入に頼った外来型の産業ではなく、地域がもともと保持している地場産業や文化・資源・伝統、住民の意志を重視した産業形態のこと。

第2節 基本目標

『「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」の成田のまちづくり』の基本理念を実現していくため、本計画では、本市の立地優位性、地域資源、事業者・市民が望む商工業振興の方向性に立脚し、次の基本目標を設定します。

基本目標 1 賑わいの創出と地域経済の活性化

本市は、古くから人々が行き交う交通の要衝であり、北総の中核的な都市として発展してきました。現在も、JR・京成成田駅から成田山新勝寺につづく表参道周辺は、国内外に日本の歴史的・伝統的な魅力を発信する風情ある街並みであるとともに、本市の商業を代表する中心的な役割を担っています。

また、国際空港の建設により、成田ニュータウンの造成や空港周辺の道路交通網整備が進められ、旧来の中心市街地以外の地区や幹線道路沿いなどにも、大・中型の商業施設の立地がみられるようになりました。一方、下総、大栄地区の自然豊かな田園地域や、近年では、公津の杜地区などを中心とした都市インフラの整備進展にともなう住宅需要の高まりなど、多様な魅力が共存する都市として発展を続けています。

加えて、本市は、全国・県の平均と比較しても、働き盛り・子育て期にある年代の人口が多いこと、15歳以上人口に占める労働力人口比率が比較的高く、完全失業人口は低い状況にあることなど、広域に雇用の場を提供する都市としての資質を備え、今後の行政、事業者、市民の取り組み次第で、さらに大きく発展していく可能性を秘めています。

住民の、健康や教育・文化への関心は高く、高齢化と相まって医療・福祉をはじめとする生活支援サービスへのニーズが高まりつつあります。また、環境・資源・エネルギー制約に対し、人の健康や地球環境にやさしいライフスタイルが求められています。

これらの背景をふまえ、本計画では、北総の中核的な都市にふさわしい魅力と活力にあふれる中心市街地づくり、各地域の暮らしとともにある商店街の活性化を進め、市民および広域住民の豊かなライフスタイルの創造に貢献する商工業を育み、それが地域経済全体の持続的な発展につながる「住んでよし」のまちをつくることを目標に掲げます。



JR 成田駅東口開発事業

基本目標 2 空港を活用した基幹産業の育成

本市は、国際空港を擁する「空の港町」として発展してきました。成田国際空港は、日本を代表する空の玄関口、日本及び首都圏の経済を支え、空港を中心に発達した空陸両面の交通網は、本市及び広域の重要な交流基盤であるとともに、本市の産業を支える重要なインフラともなっています。本市には、空港やインターチェンジ周辺を中心に産業立地が進み、特に運輸業、空港関連産業の集積は、本市の産業を大きく特徴づけるものとなっています。また、化学工業、食品製造業を中心とする工業も堅調に推移し、運輸業、工業とも、全国的に事業展開する大手企業から地元資本の単独事業所まで多様です。

現在、首都圏空港の機能強化と都心アクセスの充実、リニア鉄道や圏央道など、首都圏の交通網はますます充実しつつあり、本市及び本市産業の立地優位性は、さらに高まっていくことが予想されています。特に、空港を活用した地元産業の育成に対する期待が高く、本市では、4か所の工業団地の活性化や、空港周辺の土地利用の推進を含めた制度の整備を進め、物流機能の誘導や新産業の誘致につながる施策の展開を図っていますが、今後はさらにスピード感をもって、既存事業者の育成とともに、新たな企業立地を呼び込むための情報発信や支援体制の構築にも取り組んでいく必要があります。

空港機能や高速交通ネットワークの充実は、現在、国内外で進められており、競争条件もますます激しくなっています。今後は、空港や高規格道路※を有する環境をより積極的に活かして集積産業の高度化を促進し、空港機能の向上に貢献する産業を育成するとともに、その効果が市内商工業の全体に波及するような、本市ならではの「空港産業クラスター」を形成していきます。これを核に、本市の地域特性を活かした様々な商工業を振興し、市全体が魅力的な就業の場、人材育成の場となるような、事業所と就業者、地域の元気を支える「働いてよし」のまちをつくることを目標に掲げます。



成田国際空港

※高規格道路…高規格幹線道路と地域高規格道路がある。高規格幹線道路は、全国的な高速交通網を形成する自動車専用道路のこと。地域高規格道路は、高規格幹線道路と一体となり、地域発展の中心となる拠点を連結する、地域の交流や連携を促進するなどの機能を有する道路のこと。

基本目標 3 観光集客による多様な地域産業の振興

本市には、成田山新勝寺を中心とした門前町として都市的な発展を遂げてきた歴史があり、昔も今も千葉県を代表する観光地の一つとなっています。

国は、「新成長戦略」において、7つの戦略分野の1つに「観光立国・地域活性化戦略」をあげ、「訪日外国人を2020年初めまでに2,500万人、将来的には3,000万人まで伸ばす」方針を打ち出し、この方針は現在も引き継がれています。本市においても、平成21年度に観光振興基本計画を改定し、「多彩で魅力ある観光資源の強化育成」や、「快適に回遊し滞在できる観光地づくり」を目指し、施策・事業の展開を行ってきました。

現在、国や首都圏各地域では、平成32年の東京オリンピック開催に向けて、日本独自の文化を海外に売り込むクールジャパンや外国人観光客誘致に関わる活動が活発化しています。新勝寺及び参道は、国際空港に最も近い日本文化の集積地でもあります。東京オリンピックに先駆けて平成30年には成田山新勝寺開基1080年祭が行われ、本市は市をあげての観光立市づくりを進める好機を迎えています。本市は、「運氣上昇のまち」として、主に国内客を中心とする誘客を図っていますが、東京オリンピックに向けては、これを世界にアピールし、各国の人々を市内に誘うきっかけとすることが肝要です。

本市では今後、訪日客のメインゲートとしての資質、参詣客をもてなしてきた歴史ある観光地としての資質を軸に、広い市域に広がる美しい自然環境、歴史文化、多様な産業と観光との結びつきを強め、食や土産、農業体験や産業観光といった多様な魅力づくりとともに、会議・研修や展示会などのコンベンション、スポーツを通じて旅行の魅力を高めるスポーツツーリズムなど、本市の地域環境を活かした新たなスタイルの観光の育成を目指し、年間を通じて国内外の観光客を迎える、回遊性、滞留性の高い観光地を目指すこととします。

これにより、観光関連産業を本市の基幹産業の一つとしてさらに充実するとともに、農業や製造業など、市域に広がる様々な産業の活路をひらき、また、すべての地域、事業者、市民によるおもてなしの展開を通じて、国内外からの来訪者に愛される「訪れてよし」のまちをつくることを目標に掲げます。



成田太鼓祭

基本目標 4 内発型の商工業振興体制の充実

本市が、立地優位性と豊かな地域環境を活かし、持続可能な地域経済を内発的に構築していくためには、事業所、市民、市が協力しながら、上記基本目標の実現を総合的に推進していく必要があります。

これまで、本市は、商工会議所や商工会、工業団地連絡協議会、観光協会などの関係団体との連携を軸に、事業者の立場に立った商工業振興を進めてきました。今後とも、この体制をベースに、事業所が厳しい経営環境の中で安心して事業の継続・高度化・創造などを果たしていけるよう、各種経営支援や、人材の育成確保、産業まつりをはじめとする共同的なPR活動、異業種・同業種連携の機会づくりなどを支援していくこととします。これにより、個別市内地域間、業種間、事業者と市民との関係づくりなどを進めるとともに、市民の雇用・就業機会が安定的に確保されることを目指します。

特に、本市では「成田空港と成田山は知っていても、成田市がどんなまちかわからない」という状況に対して、本市及び本市産業の魅力を伝えていくため、本市の観光キャラクター「うなりくん」の活用をはじめ、本市のプロモーションに力を入れています。これらの取り組みを一層進めることで、事業者の営業活動を支援していくとともに、市民のふるさと意識を高め、事業者とともに本市の元気を盛り立てていく流れをつくることが重要と考えています。

これにより、事業者にとって「経営してよし」、市民にとって市内商品を「買ってよし」というように、事業者と市民が互いに協力・連携して豊かなまちづくりに向かっていけるようなまちづくりを進め、本市の特性・優位性を活かした内発型の地域経済の構築が推進されることを目指します。



産業まつりと観光キャラクター「うなりくん」

◆成田市における商工業振興のビジョン(基本理念と基本目標)イメージ

